

博物館資料保存論

防災

No.	書名 / 論題	編著者	資料の解説 / コメント
388	災害文化の継承と創造	橋本裕之、林勲男編	東日本大震災からの復興過程で地域文化が果たす役割とは。災害にかかわる従来の文化研究の視野を拡張する試み。
389	自然災害と復興支援	林勲男編著	2004年スマトラ島沖地震の被災地、インドネシア、スリランカ、インド、タイでの現地から、救援・復興・開発に何が求められるのか、文化人類学的見地から論じる。
390	文化財の防災計画：有形文化財・博物館等資料の災害防止対策	半澤重信著	文化財の所有者や、博物館、行政担当者が、文化財を盗難や災害から守る対処方法を述べています。
391	動産文化財救出マニュアル：思い出の品から美術工芸品まで	動産文化財救出マニュアル編集委員会編	各地で蓄積されてきた文化財レスキューの知識と経験をまとめる。美術品からアルバム、仏壇まで、種別に救出作業の基本を指南。
392	文化財防災体制についての国際比較研究：報告書	奥村弘、内田俊秀、天野真志編	イタリアの文化財危険地図に焦点をあて、日伊の文化財防災を比較検討。国際的な視点で歴史文化・災害文化を支える市民社会のあり方について議論。
393	災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立をめざして：国際シンポジウム：予稿集	科学研究費補助金基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立－東日本大震災を踏まえて」研究グループ編	被災した文化遺産をどう救出し保存するか。また日常的な防災や活用のあり方は。韓国、イタリア、台湾、日本の取り組みから考察。
394	戦災等による焼失文化財：昭和・平成の文化財過去帳	文化庁編	現在までに戦災・失火で失われた国宝・重要文化財175件の記録写真や資料を収録。文化財受難の事実を後世に伝える。昭和期は『戦災等による焼失文化財』も詳しい。
395	美術品はなぜ盗まれるのか：ターナーを取り戻した学芸員の静かな闘い	サンディ・ネアン著；中山ゆかり訳	盗難美術品を取り戻した経緯を、学芸員の視点から冷静に描く。文化財の価値と保存という理念を問いかけます。
396	「盗まれた世界の名画」美術館	サイモン・フープト著；内藤憲吾訳	文化財、特に絵画など美術品の盗難は有名です。盗難と経済取引を巡る実相を取材。
397	流出した日本美術の至宝：なぜ国宝級の作品が海を渡ったのか	中野明著	明治維新の混乱のなか、日本の多くの美術品が海外へ流出しました。美術品流出の埋もれた歴史を紹介。
398	世界遺産を平和の砦に：武力紛争から文化を守るハーグ条約	高橋暁著	ハーグ条約は人類が互いの文化を尊重しあうためのツールです。戦争・武力紛争後の文化復興のあり方を検討。
399	黄金のアフガニスタン：守りぬかれたシルクロードの秘宝	九州国立博物館、東京国立博物館、産経新聞社編	戦火をくぐり抜けた博物館と文化遺産の数々。「自らの文化が生き続ける限り、その国は生きながらえる」。紛争の絶えない現地からのメッセージ。
400	災害と村落	植田今日子編	村落という小規模な社会から被災のあり方を眺める。文化資源を生み出し、守り伝えるコミュニティと、災害への対処を考える。
401	水損史料を救う：風水害からの歴史資料保全	松下正和、河野未央編	文化財が風水害にあった時にどう救出するか、現場での取り組みを踏まえて紹介。

402	安定化処理：大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト(2015改訂版)	日本博物館協会編	東北地方太平洋沖地震の被災文化財は、津波で海水や泥を被った。物理的損壊やカビから文化財を救出する安定化処理の動向と課題を見つめる。初版も書架にあり。
403	よみがえる被災火焰型土器：新潟県中越地震で被災した津南町所蔵の縄文土器の修復記録	九州国立博物館、新潟県津南町教育委員会監修	2004年の新潟県中越地震で被災した縄文時代の火焰型土器。展示で借用予定だった博物館と地元が行った修復の記録。
404	災害を越えて：未来をつくる記録の力(PASSION：vol.39)	金剛社長室企画制作	私たちは災害とどう付き合っていくのか。被災資料の保存の取り組み、災害を記録し残す取り組みを紹介。
405	災害から文化財を守る：阪神・淡路大震災文化財復旧・復興事業の記録	兵庫県教育委員会社会教育・文化財課編	阪神・淡路大震災で取り組まれた、文化財レスキューの報告書。
406	所蔵資料図録：暮らしのなかの震災資料	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室編	阪神・淡路大震災の資料を写真付きで紹介する図録。災害とは、地域資料とは何かを考える際の貴重な目録です。
407	災害と歴史遺産：被災文化財等レスキュー活動の20年：兵庫県関係展示分図録：特別企画展阪神・淡路大震災20年	兵庫県立歴史博物館編	阪神・淡路大震災をきっかけに始まった、兵庫県内での文化遺産のレスキュー活動20年の成果をまとめる。
408	文化財は守れるのか?：「阪神・淡路大震災の検証」	文化財保存修復学会編	阪神・淡路大震災における文化財の救済活動を踏まえ、災害から文化財をどうすれば守れるのかを検証しています。
409	阪神・淡路大震災と歴史的建造物	加藤邦男編	阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた歴史的建造物。様々な要因で保存の明暗が分かれた実態をまとめ、その後の指針となりました。
410	阪神大震災美術館・博物館総合調査報告	全国美術館会議、阪神大震災美術館・博物館総合調査編集員編	1995年の阪神・淡路大震災における博物館の被害報告。
411	史料の被災と救済・保存：福井史料ネットワーク活動記録：敦賀短期大学地域交流センター公開シンポジウム	敦賀短期大学地域交流センター編	2004年の福井豪雨をきっかけに結成された、福井史料ネットワークによる被災資料保存活動をまとめた記録。
412	ずっとずっとふるさと陸前高田 心に生きる「たからもの」：大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト支援企画展	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会、赤沼英男、熊谷賢企画・編集	2011年の津波で被災した文化財の修理・安定化処理、博物館と地域の再生、地域に文化財を残すことの意義を訴える展覧会。
413	大地からの伝言：宮城の災害考古学	宮城の災害考古学健康特別委員会編	発掘調査で明らかにされた、宮城県の過去の災害痕跡を集成。地震や火山、洪水による被災と克服の歴史を紹介。

414	東日本大震災とミュージアム	佐藤泰監修・著、仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局編	岩手、宮城、福島ミュージアムで、東日本大震災後の文化遺産救出や展示再開、活用の活動などを記録。
415	東日本大震災美術館・博物館総合調査報告：全国美術館会議	全国美術館会議東日本大震災美術館・博物館総合調査分科会、全国美術館会議事務局編集	2011年の東北地方太平洋沖地震で被害を受けた美術館の被害報告。
416	災害と文化財：ある文化財科学者の視点から	日高真吾著；国立民族学博物館編	2011年の東日本大震災を契機とした活動から、地域復興と地域の文化財の関係を考察。救出、保存修復、活用、そして再び伝えるまで。
417	被災地の博物館に聞く：東日本大震災と歴史・文化資料	国立歴史民俗博物館編	東日本大震災によるレスキューの現状と課題を、作業に携わる関係者たちの報告から明らかにしています。
418	よみがえる！六角堂：震災復興のシンボルとしての六角堂再建記録 総集篇	天心・六角堂復興プロジェクト	2011年の津波で流失した六角堂の再建記録。文化財が新たに復興の精神的支柱ともなっているのが分かる。
419	六角堂再建の軌跡	茨城大学	2011年の津波で流失した北茨木市の六角堂の再建記録。文化財としての価値、地域復興の柱としての価値がそこにあります。
420	記憶をつなぐ：津波災害と文化遺産	日高真吾編	東日本大震災をきっかけに、三陸の暮らしの記録を振り返り、地域歴史資料の救出活動と記憶の継承のあり方を考える。類書に『資料が語る災害の記録と記憶』
421	神さま仏さまの復興：被災文化財の修復と継承：東日本大震災復興祈念特別展	東北歴史博物館編	3・11で被災した文化財の復興は、単なる修理に留まらず地域文化の継承という意味も持っています。
422	災害から文化財をまもる	文化財保存修復学会編	東日本大震災を受け、保存修復の立場で災害から文化財を守る方策を紹介しています。類書の『災害アーカイブ：資料の救出から地域への還元まで』は茨城の活動報告。
423	ふくしま再生と歴史・文化遺産	阿部浩一、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター編	原発事故・津波・地震から、多種多様な文化遺産を地域社会でどのように守り、活用していくのかを見つめます。
424	無形民俗文化財が被災するということ：東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌	高倉浩樹、滝澤克彦編	東日本大震災では無形文化遺産も被災しています。「無形」の文化伝統をどう守るか。社会的意義までを考察。
425	ふるさとを想うまもるつなぐ：地域の大学と町役場の試み	富岡町、福島大学、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター編	地域歴史資料を保存する意味とは。富岡町と大学による資料保全活動の成果を紹介。復旧の記録と資料がつなぐ人々と地域の様相。
426	平成28年熊本地震(PASSION：vol.38)	金剛社長室企画制作	地震後の図書館や博物館の取り組みから、資料保存、震災から生まれる地域資料の諸相を紹介。
427	地震のあとで：熊本地震記録集	坂本顕子〔ほか〕編	熊本地震で被災した美術館が、地震後、地域のためにいち早く開館し、取り組んできた活動を記録。

428	平成28年熊本地震による被災古墳の現状と課題：第20回九州前方後円墳研究会熊本大会：発表要旨集	第20回九州前方後円墳研究会実行委員会編集	熊本地震で被災した文化財、特に装飾古墳を主とした遺跡の現状と保存修復の課題を議論。
429	自然災害と考古学：災害・復興をぐんまの遺跡から探る	群馬県埋蔵文化財調査事業団編	群馬県内に残る噴火、地震、洪水など自然災害の痕跡から、当時の生活や復興する姿を復元。災害に強い社会づくりへのメッセージ。
430	先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える：命と文化遺産とを守るために	和歌山県立博物館編	遺跡や歴史文書、絵図などから読み解く紀伊半島の過去の地震・土砂災害・海難を紹介し、文化遺産を後世に伝える冊子。シリーズ〈2〉〈3〉
431	京都の災害をめぐる	大邑潤三、加納靖之著；橋本学監修	京都に残る災害の石碑などをたどるガイドブック。類書に『不死鳥のまち京都：文化遺産と災害』
432	書物の破壊の世界史：シュメールの粘土板からデジタル時代まで	フェルナンド・バエス著；八重樫克彦、八重樫由貴子訳	人類が生み出した書物は、過去何度も人類自身によって破壊の憂き目にあってきました。その歴史から保存までを考えます。
433	ISCACH (Beirut 2015) : International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage : program and abstracts	ISCASH 2015 Organizing Committee	シリアの内戦にともなって危機的状況に陥っている考古学的な文化遺産の現状を報告。
434	震災遺産を考える：次の10年へつなぐために	福島県立博物館	2011年の大地震から10年。毎年積み重ねてきた展示をベースに、震災遺産収集の背景などを追加し、災害との対話を目指した展示の解説編。
435	災害アーカイブ：資料の救出から地域への還元まで	白井哲哉	被災資料のレスキュー。また歴史資料の平時の保存、アーカイブのあり方までを、災害の経験と実践から考えます。
436	「生存」の歴史と復興の現在：3・11分断をつなぎ直す	大門正克 [ほか] 編	震災によって分断された私たち。人々をつなぐ地域歴史遺産の再発見、生存の歴史を考えます。
437	復興を支える地域の文化：3・11から10年：特別展	日高真吾 編	東日本大震災から10年。資料の復旧を通じて地域文化の再生を見つめ、考えます。
438	ブルーシールド：危険に瀕する文化遺産の保護のために：国際図書館連盟第68回年次大会(2002年グラスゴー)資料保存コア活動・国立図書館分科会共催公開発表会報告集	コリン・コッホ編	紛争から文化遺産を守るブルーシールド活動と、ハーグ条約について詳しく紹介。原著は国際図書館連盟(IFLA)刊行
439	災害とアートを探る	赤坂憲雄 編	東日本大震災後、取り組まれてきた美術のさまざまな取り組み。大災害・大事故に博物館がむきあう方法を考えます。
440	災害展示論	田中隆文 著	過去の災害から学ぶにあたり、どんな展示で何を伝えていくのか。求められるコンセプトや展示方法を提言。

441	地震被災建物修復の道しるべ：新潟県中越地震・能登半島地震・中越沖地震被災住宅修復支援の現場から	長谷川順一著	実際の被災建物の復旧事例を紹介しながら、実践的な修復方法を考え提案する。
442	文化遺産と防災のレッスン：レジリエントな観光のために	山下晋司、狩野朋子編	文化遺産と防災、観光の関わりから、文化遺産でいかに地域を守るかを考える。
443	COVID-19の下で、記録に向き合う：博物館、史料レスキュー活動と状況の記録	佐藤大介、川内淳史編	災害からの資料レスキューとその後の様子、さらにはコロナ禍の社会状況を記録する博物館等の取り組みを伝えます。
444	旧相模川橋脚：関東大震災によって蘇った中世の橋：神奈川県茅ヶ崎市	大村浩司著	相模川の中世の橋脚が、関東大震災によって出現した。国史跡と天然記念物に指定された遺跡の調査と保存整備を示す。